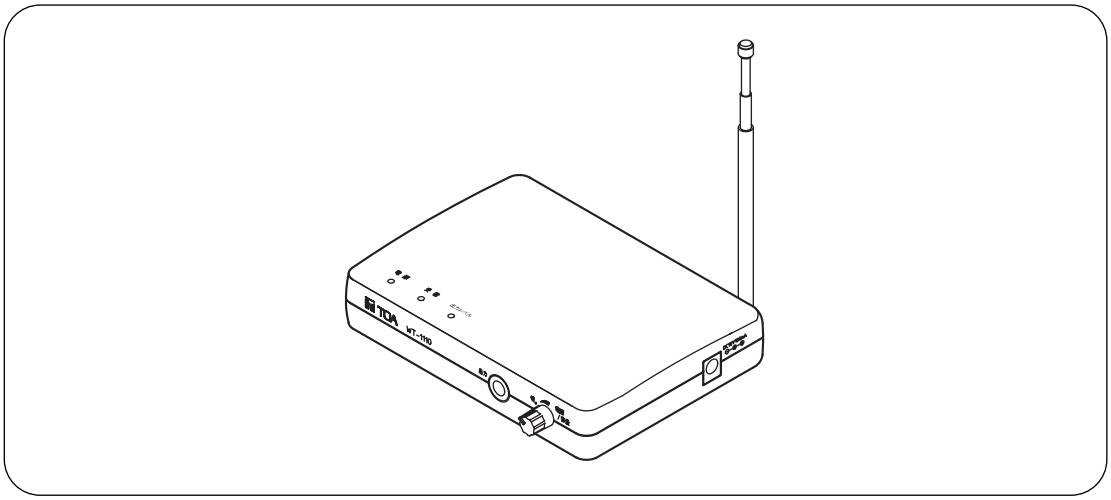
TOA

取扱説明書

卓上型受信機 WT-1110

このたびは、TOA 卓上型受信機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。



目　次

安全上のご注意 …… 1
概　要 …… 3
使用上のご注意 …… 3
各部の名称 …… 4
各種スイッチの設定のしかた
　LINE/MIC スイッチ …… 4
　テストスイッチ …… 5
　トーンスイッチ …… 5
　受信感度スイッチ …… 5
　グループスイッチとチャンネルスイッチ …… 5
設置のしかた …… 5
操作のしかた …… 6
上手な使いかた …… 6
故障かな？と思ったら …… 7
周波数表 …… 7
トーン周波数表 …… 7
仕　様 …… 8
　付属品 …… 8

安全上のご注意

⚠ 警告　誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

水にぬらさない
本機に水が入ったりしないよう、また、ぬらさないようにご注意ください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

指定外の電源電圧で使用しない
表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

TOA 株式会社

⚠ 警告

誤った取り扱いをしたとき、人が死亡または重傷に結びつく可能性のあるもの。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたりしないでください。
また、コードの上に重いものをのせないでください。
火災・感電の原因となります。

禁　止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁　止

万一、異常が起きたら

次の場合、電源スイッチを切り、ACアダプタを抜いて販売店にご連絡ください。
そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

- 煙が出ている、変なにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ったとき
- 落としたり、ケースを破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出、断線など）
- 音が出ないとき

注　意

内部を開けない、改造しない

内部には電圧の高い部分があり、ケースを開けたり、改造したりすると、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

液体の入った容器や小さな金属物を上に置かない

こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

禁　止

雷が鳴ったらさわらない

雷が鳴り出したら、ACアダプタにはさわらないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

⚠ 注意

誤った取り扱いをしたとき、人が傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの。

ぬれた手でACアダプタをさわらない

ぬれた手でACアダプタを抜き差ししないでください。
感電の原因となることがあります。

禁　止

電源コードを引っ張らない

ACアダプタを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。
コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
必ずプラグを持って抜いてください。

禁　止

移動させるときはACアダプタを抜く

差し込んだまま移動させるとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

強　制

設置場所に注意

湿気やほこりの多い場所、直射日光のあたる場所や熱器具の近く、油煙や湯気のあたるような場所に置かないでください。
火災・感電の原因となることがあります。

禁　止

上に重いものを置かない

バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

禁　止

⚠ 注意

誤った取り扱いをしたとき、人が傷害または物的損害に結びつく可能性のあるもの。

製品の上に乗らない
本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。
倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

禁　止

電源を入れる前には音量を最小に
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

注　意

ACアダプタは専用品を
専用品以外のものを使用すると、火災の原因となることがあります。

注　意

AC アダプタやコンセント部の掃除を
AC アダプタを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。
また、AC アダプタは根元まで差し込んでください。

注　意

お手入れの際、長期間使用しない場合の注意
お手入れのときや長期間本機をご使用にならないときは、安全のため電源スイッチを切り、AC アダプタをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

強　制

概　要

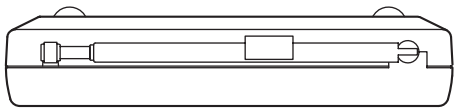
本機は、特定小電力無線局のC型ワイヤレスマイクロホン用に割り当てられた322 MHz帯の電波を使用した卓上型受信機です。

使用上のご注意

- 使用する電源はAC100 Vです。使用後は必ず電源を切ってください。
- 本機の分解、改造およびアンテナの付け換えは、絶対にしないでください。
- 蛍光灯、ディジタル機器、パソコンなど高周波雑音を発生する機器からできるだけ離して使用してください。
- テレビ、ラジオ、その他の公共通信などに雑音が入ったり混信が生じたときなどは、本機の使用を中止してください。放送局や無線局の近くでは、混信したり音声が途切れる恐れがありますので、ご注意ください。
- アンテナは必ず垂直に立ててください。アンテナを垂直に立てていないと正しく受信できないことがあります。
- ケース外部の汚れは乾いた布で軽く拭いてください。ベンジン、シンナーなどは絶対に使用しないでください。
- 本機の周囲に金属物など電波をさえぎる物を置かないでください。正しく受信できないことがあります。
- アンテナを握って本機を持ち歩かないでください。故障の原因となります。
- 床に落としたり、固い物に当てないでください。故障の原因となります。

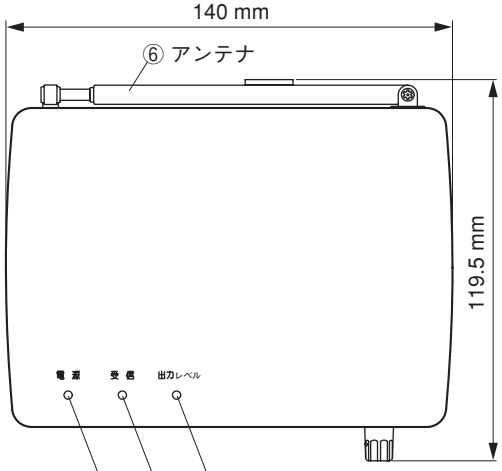
各部の名称

［後面］

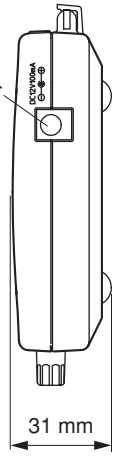


⑦ LINE/MICスイッチ　L　M
⑧ テストスイッチ　無　有
⑨ トーンスイッチ　1　2
⑩ 受信感度スイッチ　Hi　Lo

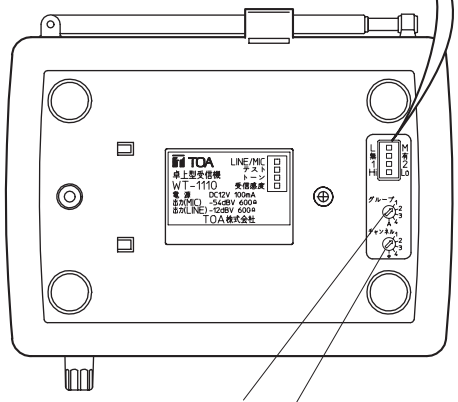
［上面］



［側面］

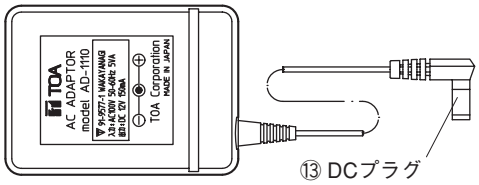


［底面］



［前面］

● ACアダプタ（付属品）



● 表示灯について

③ 電源ランプ（緑）　：電源が入ると点灯します。
④ 受信ランプ（黄）　：点灯 …… 電波を受信しています。
速い点滅 …… トーンが一致していない電波を受信しています。ただし音声は出力されません。
3回点滅繰り返し …… グループスイッチ⑫、チャンネルスイッチ⑬が割り当て外のところに設定されています。
⑤ 出力レベルランプ（黄）：出力レベルの大きさを明るさで表します。出力レベルが大きいほど明るくなります。

各種スイッチの設定のしかた

■ LINE/MIC スイッチ

- LINE/MIC スイッチ⑦を切り換えることで、右表のように出力レベル（出力端子②からの信号レベル）が変わります。接続する機器に合わせて設定してください。
- LINE/MIC スイッチは工場出荷時には「L」（LINE）に設定されています。

LINE/MIC スイッチ⑦の設定	出力レベル
「L」（LINE）	−12 dBV
「M」（MIC）	−54 dBV

■ テストスイッチ

電源を切ってから、テストスイッチ⑧を「有」に設定し、再び電源を入れると本機はモニタモード（最高感度で受信した様子を出力するモード）になります。混信や妨害電波などを音声で確認することができます。確認後は一度電源を切り、テストスイッチを「無」に戻してから使用してください。
※ テストスイッチは工場出荷時には「無」に設定されています。

ご注意

- 電源が入った状態でテストスイッチを切り換えないでください。電源を切ってからテストスイッチ⑨を切り換えないと、モニタモードへ正しく切り換わりません。
- テストスイッチを「有」に設定した状態では、雑音や混信妨害等の音が出力されますので、音量を小さくして使用してください。

■ トーンスイッチ

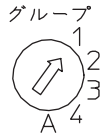
本機にはトーンスケルチ機能があり、送信機と受信機の両方が同じトーンに設定されたときのみ受信機から音声が出るようになっています。本機にはトーンが２チャンネルありますので、使用する送信機と受信機のトーンを同じ設定にしてください。
※ トーンスイッチ⑨は工場出荷時には「1」に設定されています。

■ 受信感度スイッチ

受信感度スイッチ⑩を「Hi」にすると、スイッチを「Lo」にしたときよりも通達距離が長くなります。ただし、スイッチを「Lo」にしたときよりも、弱い電波を受信しているときに雑音が多くなります。拡声する場合は「Lo」に設定してください。
※ 受信感度スイッチは工場出荷時には「Lo」に設定されています。

■ グループスイッチとチャンネルスイッチ

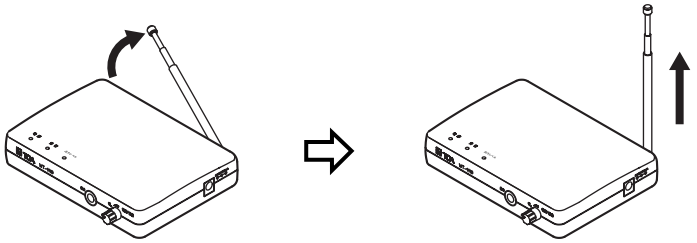
グループスイッチ⑪とチャンネルスイッチ⑫をそれぞれ送信機と同じ設定に合わせてください。
※ グループにより使用できるチャンネル数が異なります。周波数表（P.7）で確認し、設定してください。
※ スイッチの設定には、付属の設定用ドライバを使用してください。
※ 工場出荷時にはグループスイッチはグループ「1」、チャンネルスイッチはチャンネル「1」に設定されています。



設置のしかた

1. 本体を水平な場所に設置します。

2. アンテナを垂直に立て、最大の長さまで延ばします。



操作のしかた

1. ACアダプタ（付属品）のDCプラグ⑬を、本体のDC入力ソケット⑭へ差し込んだのち、ACアダプタを電源コンセント（AC100 V）に差し込みます。

2. トーン、グループ、およびチャンネルを設定します。（設定のしかた ☞ P.5「トーンスイッチ」「グループスイッチとチャンネルスイッチ」）

3. 本機の出力レベルを接続機器の入力レベルに合わせて設定します。（設定のしかた ☞ P.4「LINE/MICスイッチ」）

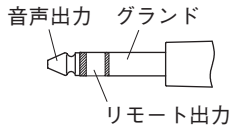
4. 別売の卓上型送信機、アンプなどの入力端子と本機の出力端子②を接続します。
※ 接続には付属の3極ホーンコードを使用してください。

5. 電源スイッチ付きボリューム①を時計方向に回して電源を入れ、音量を最大にします。
→ 電源が入ると電源ランプ（緑）③が点灯します。
→ 電波を受信すると、受信ランプ（黄）④が点灯します。
※ 本機の音量は最大にして使用してください。（音量を最大にしても音はひずみません。）ただし、本機に接続した外部機器にボリュームがない場合は、本機のボリュームで音量を調節してください。

6. 使用後は、電源を切ってください。

上手な使いかた

- 同一場所で同時に使用できるチャンネル数は、グループ1～3では4チャンネル、グループ4では1チャンネル、グループAでは5チャンネルです。同時に使用するときは、同一グループの中でチャンネルを設定してください。複数のチャンネルを同時に使用すると、1チャンネルのみの場合に比べて通達距離が短くなることがあります。
- 近くで本機と同じC型ワイヤレスマイクロホンを使用していると、チャンネルによっては妨害を受けることがあります。そのときは、使用するチャンネルを変更してください。
- 本機には、リモート出力があります。
本機が同一トーンの電波を受信すると、リモート出力がON（3極ホーンプラグのリモート出力端子がグランド端子とメークした状態）になり、外部機器の電源を起動させて、音声を出力することが可能となります。また、リモートを使用するときは、LINE/MICスイッチを「LINE」にしてください。



- 本機には、スキャン機能があります。グループ1～3でチャンネルを「・」にするとスキャンモードになります。スキャンモードでは、受信中の電波が弱くなり受信しなくなると同時に、自動的に新たな受信可能な電波を探して受信します。1種類のソース（音源）を複数箇所から異なるチャンネルで送信しているときなどに使用します。電波を受信すると受信ランプ（黄）④が点灯します。

ご注意

- スキャンモードでは1種類のソース（音源）で使用してください。電波を受信している間は、他チャンネルの送信機が近づいても受信している電波は切り換わりません。したがって、送信機ごとのエリアを想定して異なるソース（音源）を送信しても、受信する電波がうまく切り換わらないことがあります。
- グループ4とグループAにはスキャン機能はありません。

故障かな？と思ったら

症　状	点　検	処　置
電源が入らない。	ACアダプタが正しく差し込まれていますか？	ACアダプタを正しく差し込んでください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は消灯。	グループスイッチ⑪、チャンネルスイッチ⑫が送信機と同じ設定になっていますか？	グループスイッチ、チャンネルスイッチを送信機と同じ設定にしてください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は3回点滅のくり返し。	グループスイッチ⑪、チャンネルスイッチ⑫が割り当て外のところに設定されていませんか？ 下記以外の設定はできません。 グループ1～3：チャンネル1～4 グループ4：チャンネル1 グループA：チャンネル1～4、・ なお、グループ1～3のとき、チャンネル「・」を選択するとスキャンモードになります。	グループスイッチ、チャンネルスイッチを正しく設定してください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は速い点滅。	トーンが送信機と同じになっていますか？	トーンスイッチ⑨で送信機と同じトーンにしてください。
送信機と受信機が近くても受信できない。受信ランプ④は点灯。	3極ホーンプラグが奥まで挿入されていますか？	3極ホーンプラグを奥まで挿入してください。
送信機から離れると、雑音が多くなる。	受信感度スイッチ⑩が「Hi」になっていませんか？	受信感度スイッチを「Lo」に設定してください。
	テストスイッチ⑧が「有」になっていませんか？	電源を「切」にしてテストスイッチを「無」にしてください。
リモートができない。	出力端子②に3極ホーンプラグが正しく挿入されていますか？	出力端子に3極ホーンプラグを正しく挿入してください。
受信する音が歪む。	LINE/MICスイッチ⑦が正しく設定されていますか？	LINE/MICスイッチを正しく設定してください。
受信する音が小さい。	LINE/MICスイッチ⑦が正しく設定されていますか？	LINE/MICスイッチを正しく設定してください。

周波数表

グループ / 周波数(MHz)	1	2	3	4	A
322.025			C31		CA1
322.050	C11				
322.075		C21			CA2
322.100	C12				
322.125		C22			
322.150			C32		CA3
322.250	C13				
322.275		C23			
322.300				C41	CA4
322.325			C33		
322.350	C14				
322.375		C24			
322.400			C34		CA・

※ 真ん中の数字がグループを、末尾の数字がチャンネルを表します。

トーン周波数表

1	14.80 kHz
2	14.75 kHz

仕　様

電　　源	AC100 V、50/60 Hz（AC アダプタ）
消 費 電 力	3 W
無線局の種類	特定小電力無線局ラジオマイク用無線設備
電 波 型 式	F3E
受信周波数	322.025 ～ 322.150 MHz、322.250 ～ 322.400 MHz 25 kHz 間隔、13 チャンネル
受 信 方 式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
受 信 感 度	S/N25 dB 以上（10 dB μ VEMF 入力、偏移± 2.25 kHz） 受信（スケルチ）感度切り換え、Hi ： 10 dB μ VEMF、Lo ： 20 dB μ VEMF
トーン周波数	14.80 kHz、14.75 kHz（2 チャンネルのうちの 1 チャンネル）
総合周波数特性	150 ～ 6,000 Hz（卓上型送信機→携帯型受信機） 130 ～ 7,000 Hz（卓上型送信機→卓上型受信機）
プリエンファシス	50 μ s
出力レベル	標準出力：–12 dBV（ライン時）、–54 dBV（マイク時） （標準偏移± 2.25 kHz、変調波 1 kHz） 最大出力：+12 dBV（ライン時）、–30 dBV（マイク時） （標準偏移± 7.0 kHz、変調波 1 kHz） ライン／マイク切り換え、600 Ω、不平衡、ホーンジャック
リモート出力	オープンコレクタ出力、耐電圧： DC50 V、制御電流： 30 mA 以下 電波受信時：メーク出力
機　　能	チャンネルスキャン機能
使用温度範囲	–10 ～ +40 ℃
仕 上 げ	本体： ABS 樹脂、ダークシルバー
寸　　法	140（W）×31（H）×119.5（D）mm（突起部を含む）
質　　量	270 g（AC アダプタを含まず）

※ 本機の仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

● 付属品

AC アダプタ（コード長 1.8 m） …… 1
設定用ドライバ …… 1
3 極ホーンコード（2 m） …… 1

TOA

TOA インフォメーションセンター
商品や技術など、お問い合わせにお応えします。
受付時間 9：00 ～ 17：00（日曜・祝日除く）

フリーダイヤル（無料電話）
TEL. 0120 - 108 -117
〒 665-0043 宝塚市高松町 2 番 1 号
TEL.（0797）72-7567
FAX.（0797）72-1090

商品の価格、在庫、修理およびカタログのご請求については、取扱い店または最寄りの営業所へお申し付けください。

133-07-160-70